

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 1日

事業所名 しあわせ駅 松本

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			学習室用の机を配置、ジョイコンマットの活用等工夫して安全に過ごせるように配慮している。	
	2 職員の配置数は適切である	6			職員の配置基準を満たし、かつ、児童指導員も常に確保できている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			フロア全体は、ほとんど段差がない。トイレ、洗面所の小さい段差には、スロープ等のバリアフリー化がなされているが、敢えて一部残した段差(玄関上がりの大きな段差)については、歩行困難児が利用しているので、歩行訓練の為、活用している。社会生活において「段差の乗り越え方」の意識づけを行うという目的を持っている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1		業務改善のためのミーティングを随時行っているが、今後さらに明確な目標設定と振り返りを強化していく。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			保護者のご意見を積極的に取り入れ、さらに業務改善ができるように努めていく。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			自己評価の内容は、毎年しあわせ駅のホームページで公表している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			6		今後、導入を検討中
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			本社にて研修を行っている。また、本社主導により、テーマを決めて、各事業所においても全職員参加の研修を実施している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			職員全員でミーティング等で確認、作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			個々に合わせたアセスメントツールを使用しているが、今後も随時見直しを図っていく。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			活動プログラムの立案は、全職員の意見を必ず取り入れるようにミーティングを組んでいる。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			全職員がの意見を取り入れる事で、支援内容がマンネリ化しないように気を付けながら、活動プログラムを作成している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			支援時間や季節ごとに、児童の体力等も考慮し、活動できる内容や活動範囲を考え、支援時間を有効に使えるように心がけている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			職員全員で随時ミーティングしながら、児童一人一人の状況・特性を把握できるよう心掛けている。今後さらに、職員間の情報共有を徹底して行っていく。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			朝のミーティングの時間に、職員間で前日の申し送りや、その日の支援内容や、役割の確認を行っている。	
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			支援終了後には、児童の活動記録の記入を行いながら、職員間でミーティングを行い、支援の振り返りを行っている。		

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			日々の記録は必ず行っている。記録を元に職員同士の情報共有も行なっている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			定期的にモニタリングを行い、サービス計画の見直しの是非を皆で判断・検討している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6			ガイドラインの総則も基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているが、「地域交流の機会の提供」については、コロナ禍の影響により、今年も提供が難しく、室内活動に振り替えることも多かった。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			事前に全職員で該当児の状況についてミーティングし、児童発達支援管理責任者が会議出席し、人員に余裕があれば、該当児の支援に精通した職員が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			学校の行事予定などの情報共有は、ほぼ月単位で実施。行事変更による送迎時間変更の細かい連絡調整は、送迎担当職員が中心になって実施している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			6		対象児がいない為、現時点では行っていないが、今後必要に応じて対応していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			他機関担当者に参加を依頼し、情報共有と相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			6		卒業生がいない為、現時点では行っていないが、今後、必要に応じて対応していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			6		コロナ禍の影響で、今年度はほとんど研修等の機会がなかったが、今後は全職員が参加出来るような研修体制を整えたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			6		コロナ禍の影響で、今年度はほとんどその機会がなかったが、今後は児童館での交流にも参加できるよう体制を整えて、活動プログラムに組み込んでいく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			6		これまで機会がなかったため、参加してなかったが、今後コロナ禍の終息後は、調べて参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時や保護者の事業所お迎えの時、時間を取って、児童の様子等を話す機会を設けて、共通理解を得て、過程と連携が取れるようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			6		「ペアレント・トレーニング」に限定すると実施できていないが、保護者支援の観点から、ペアレントも含めて、将来的には親支援を実施できるように検討していく。
保護	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			契約時に必ず書面・口頭での説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			保護者からの相談には、随時対応しており、時には専門家の意見を参考にしながら伝え、必要な助言が適切に出来るよう、さらに職員間での研修強化も検討中である。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			6		定期的な保護者会はまだ未設定。コロナ禍の為、年に1回の児童・保護者の交流会も見送っている。

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
観 者 へ の 説 明 責 任 等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			苦情や意見に対しては、適切な対応を心掛けていますが、今後、対応体制の整備について、児童や保護者へ周知し、苦情・意見があった場合は迅速・適切に対応していく。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			・毎月1回「しあわせ駅便り」を発行している。また、連絡体制等については、その都度、LINEにて保護者に伝えている。	
	35	個人情報に十分注意している	6			シュレッダー等を活用し、書類の廃棄を行っている。 ・保存書類は窓から見えないよう、保護シートや施錠での管理を行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			ミニ文書やLINEにて連絡している。 また、手話やジェスチャーを活用することもある。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			6		コロナ禍の為、今年度も企画は無いが、感染状況を見ながら、企画・検討していく。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6			各マニュアルは職員に周知し、資料も保管し、随時閲覧可能としている。今後、保護者への周知徹底にも力を入れていく。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			定期的な避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			本社主導により、テーマを決めて、各事業所において全職員参加の研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している			6	現在、対象児童はいないが、身体拘束に関する注意事項等のマニュアル化している。今後、身体拘束を必要とする児童が利用する場合は、作成したマニュアルをもとに、実施・対応していくことを全職員に周知徹底している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			6	現在、該当児はいないが、以前は医師ではなく保護者の指示で対応していた。今後は必要のある時には対応していく。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			事例集(ファイル式)を常設し、職員間で共有しており、いつでも閲覧できるようにしている。	